

全 員 協 議 会

日 時 平成28年6月3日(金) 午前11時00分 ~
場 所 全員協議会室

- 1 開 議
- 2 行政報告
京都スタジアム(仮称)の状況報告について
- 3 質疑
- 4 その他

全 員 協 議 会

京都スタジアム（仮称）の状況報告について

平成28年6月3日（金）

【資料一覧】

《京都スタジアム（仮称）の状況報告について》

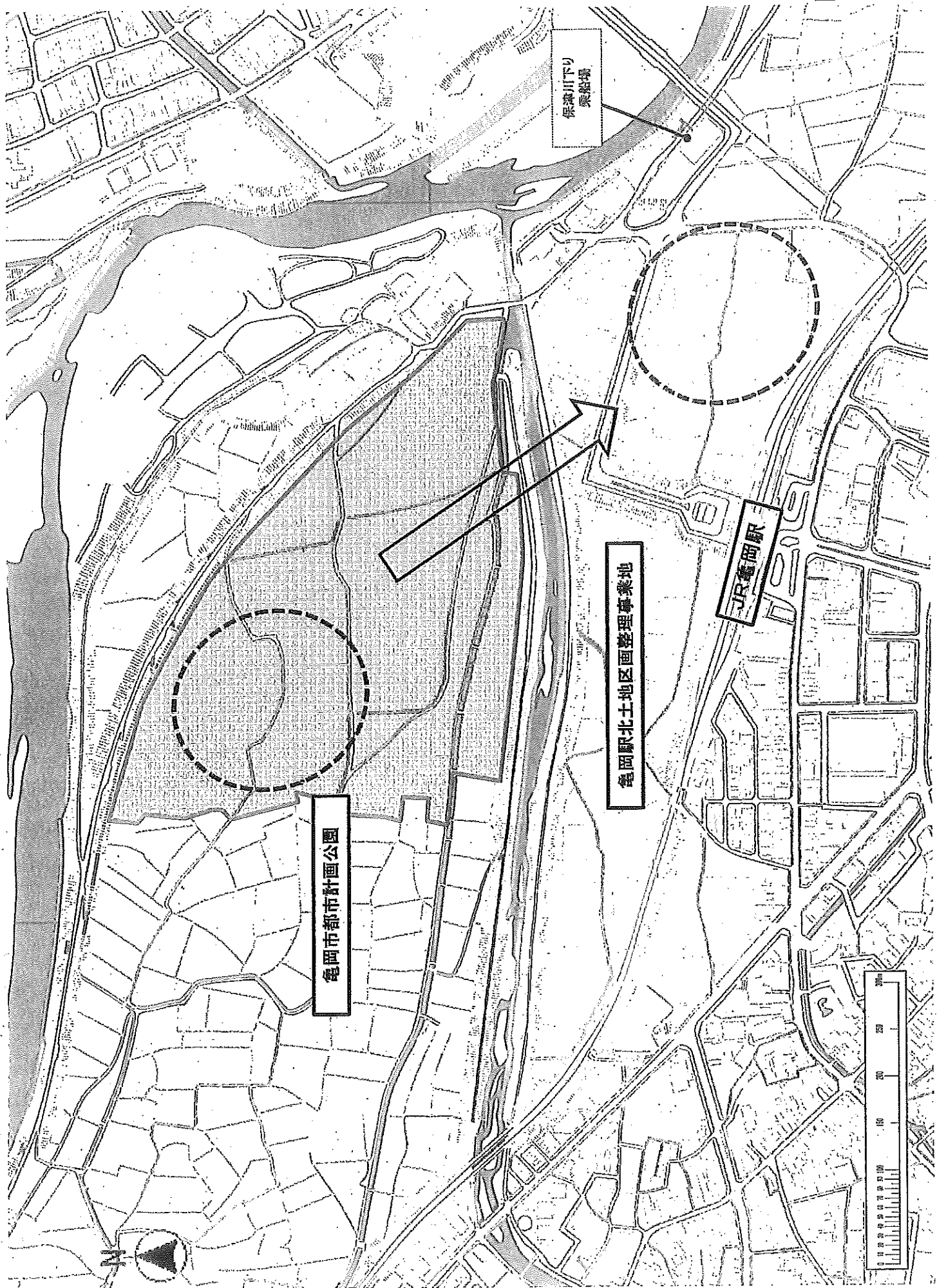
亀岡市議会全員協議会説明

平成28年6月3日(金)11:00～

【資料1】位置図（亀岡市都市計画公園、亀岡駅北区画整理事業地）
・・・P1

【資料2】京都スタジアム（仮称）の早期実現に関する要望書
・・・P2

【資料3】新聞記事
・・・P5



亀岡市長 桂川 孝裕様

京都スタジアム（仮称）の早期実現について

去る4月27日に「亀岡市都市計画公園及び京都スタジアム（仮称）に係る環境保全専門家会議」は、現計画地ではアユモドキに調査や実証実験を重ねる必要があり、スタジアム整備を早期に実現させるため、計画地に隣接する亀岡駅北土地地区画整理事業地への変更が望ましいとする座長提言が発表されました。

亀岡市での京都スタジアム建設は、5万6千人もの市民署名をはじめ亀岡市の熱心な誘致活動とともに、利便性や経済性、府域全体へのスポーツ振興に優れているとの有識者選定委員会の評価を踏まえて、平成24年12月に京都府知事により決定されたものです。

以来、早期実現を願う多くの市民は、計画地周辺でのアユモドキを含む自然環境の保全に必要な調査が長引く中で、経過を見守ってきました。

京都スタジアムは、亀岡市の新たなシンボルとして、経済効果のみならず、地域間交流や若い世代への「夢」を育み、スポーツ文化の振興発展など、大きな社会的効果を発揮する施設であり、一日も早い完成が求められます。

まさしく京都スタジアムは、亀岡市の新しいまちづくりに必要不可欠な施設です。現計画地での取組が、保津町の皆様の大きな理解と協力の下に進んできた経過を踏まえると、計画地の変更は大変残念と言わざるを得ません。

しかし、今回の座長提言を踏まえた対応を逃すと、亀岡市でのスタジアム建設が危ぶまれ、亀岡駅周辺のみならず、亀岡市全体のまちづくりにも大きな影響が懸念されるため、変更は苦渋の選択であると考えます。

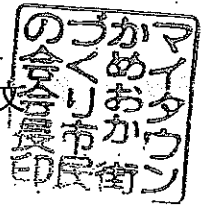
つきましては、亀岡市での京都スタジアムの早期実現に向けて、次の事項に格段のご配慮をいただきますよう、要望します。

- 1 座長提言を受け止め、駅北土地地区画整理事業地への建設予定地の変更は、柔軟で早急な対応をされたい。
- 2 長年、アユモドキの生息環境の保全に懸命な努力と亀岡市の発展を願って用地買収に応じられた地元住民の熱い思いに寄り添い、京都・亀岡保津川公園の有効な活用を図るために十分な検討をされたい。
- 3 大幅な事業計画の変更が求められる亀岡駅北土地地区画整理組合にとって負担とならないよう、最大限の対応をされたい。

平成28年 6月 2日

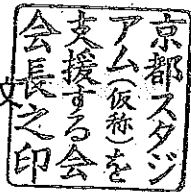
マイタウンかめおか・街づくり
市民の会 会長

渡邊 裕文



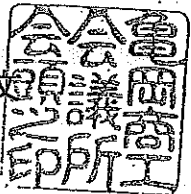
京都スタジアム（仮称）を支援
する会 会長

渡邊 裕文



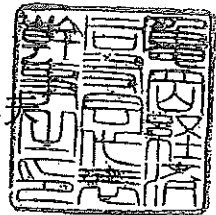
亀岡商工会議所会頭

渡邊 裕文



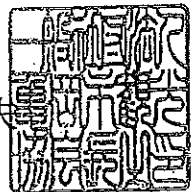
亀岡経済同友会代表幹事

奥村 邦夫



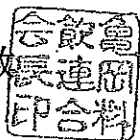
一般社団法人亀岡市観光協会会長

楠 善夫



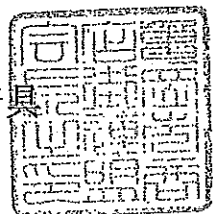
亀岡料飲連合会会長

横山 由数



亀岡市商店街連盟会長

仲井 資具



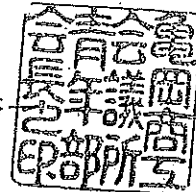
一般社団法人亀岡青年会議所理事長

木戸 庸



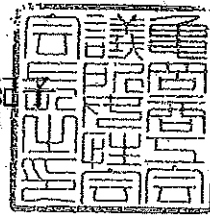
亀岡商工会議所青年部会長

伊藤 秀



亀岡商工会議所女性会長

藤岡 美紅

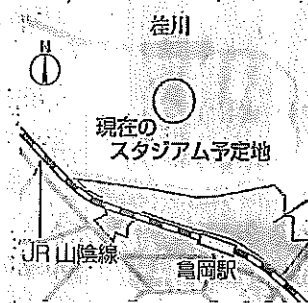


球技場 隣地に変更を

府と亀岡市に環境公会議提言

アユモドキへの影響配慮

京都府が亀岡市で計画する球技専用スタジアムの建設予定地について、府の



土壌区画整理事業地

環境専門家会議が27日、予定地を南側の隣接地へ変更するよう府と亀岡市に提言した。現在の予定地では、一帯に生息する国の天然記念物アユモドキへの環境影響調査にさらに時間を要するため、早期完成に向け、変更が望ましいとした。府と市は提言に沿って、変更が可能か検討する方針。

(22面「関連記事」)

府は従来通り2018年3月までの完成を目指す。新たな土地の確保や地元協議も必要となり、完成時期が遅れる可能性もある。JR亀岡駅北側の桂川右岸に近接する亀岡市所有の土地(13・9畝)から、南隣の民有地「亀岡駅北土地区画整理事業地」(17・2畝)に移すよう求めた。府や市でつくる専門家会議が

非公開の会合で提言をまとめ、府庁で山田啓三知事と桂川孝裕亀岡市長に提言書を渡した。

専門家会議座長の村上眞正・元京都大講師(保全生態学)は「今の予定地でも環境に配慮したスタジアム建設は可能だが、調査を終えるまでに最低3年はかかり、完成も遅れる」と強調。「提言した場所は開発地域で、アユモドキの生息数も限られ、影響は少ない」と説明した。

山田知事は「前向きな提言」と評価したが、「府の負担は15・6億円という範囲内で考える」と述べ、土地買収などでの追加負担は否定した。桂川市長は、

市が予定地を約14億円で取得し、地元住民らと協議してきた経緯を踏まえ、「正直言って困惑している。(土地買収費を含め)関連事業で50億円と市議会に説明しており、市のできる範囲も限られる。新たな場所が技術的に建てられるのか、土地所有者の理解を得られるのか、課題も多い」と述べた。

スタジアム計画は環境影響評価のため、完成時期を当初の予定より1年先延ばしした。ただ、昨年末までに終えるはずだった調査の継続が必要で、今年4月に予定していた本體工事開始を見送っている。

(日山正紀)



(1面)

京 (22面)

亀岡の球技場新予定地案

まちづくりの見直し必至

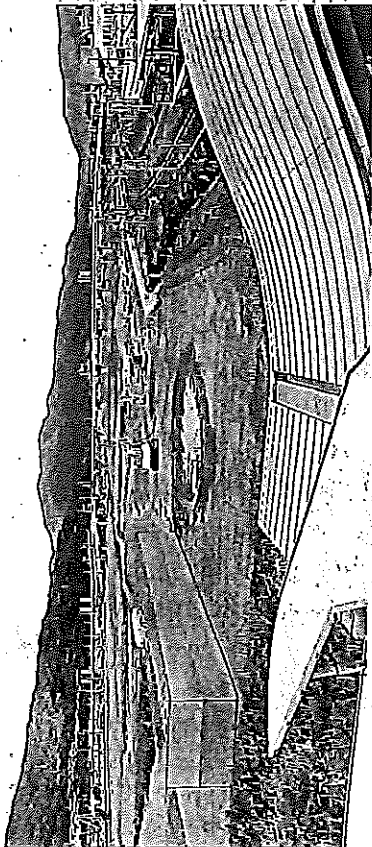
「寝耳に水」住民困惑

「おんがた」

京都府が亀岡市で進める球技専用スタジアム計画で、予定地を隣接地へ変更する案が浮上した27日、地元の関係者らは「寝耳に水」と驚き、困惑が広がった。移転先として提言された土地区画整理事業地は、JR亀岡駅の真近で商業施設や住宅開発が予定されている。変更が実現すれば、市がスタジアムとの相乗効果を狙ったまちづくりは大幅な見直しが迫られる。

土地活用 新たな課題

新たな候補地は駅に隣接する一等地。民間事業者を誘致して「商業・文化ゾーン」や「公園ゾーン」を設け、住宅地を整備する予定だ。地権者108人ごとく



京都府の球技専用スタジアムの変更先として提言された亀岡駅北土地区画整理事業地。手前の屋根はJR亀岡駅(亀岡市退分町)

る土地区画整理事業組合が計画を進めており、すでに2月には起工式も済ませた。

事業組合の関本孝一理事長(66)は、報道陣からの問い合わせて初めて提言を知ったといい、「スタジアム計画が遅れがちな心配していたが、こちらを指定するのは思ってもみなかったと驚く。「組合員である地権者の合意なくして変更はありえない。まずは市の説明をしっかり聞き、役員らと対応を考えたい」と言葉を選んだ。

現行のスタジアム建設地は、亀岡市がすでに13億600万円を投じて13.9畧を取得している。ここにスタジアムを核とした都市公園を整備し、国の天然記念物アエモトキの生息・繁殖に向けて「共生ゾーン」を整備する書写真だった。スタジアムがで

きなければ、この土地の新たな活用策が大きな課題となる。

地元アエモトキの保護活動を長年続けることにも、地域の活性化に向けスタジアム建設を求めている塚田豊保(町長)は「案の一方的提言。土地区画整理事業への影響も大きく、驚きを超えて怒りを感ずる」と憤る。保全と開発の両立を求めて行政と連携してきただけに「このままでは、地元は保全の取り組みをやめかねない」と危ぶむ。

スタジアム計画が難航している最大の理由は、何と亀岡市が建設地の選定段階で、アエモトキ保全がこれほど大きな問題になるとは考えていなかったためだ。現在の予定地が決まると、全国の集積学者や環境団体から計画見直しを求め、声を噴出した。「環境と共生するスタジアムをつくらねば」とは、保全に向けた専門家の議論を最大限尊重するを得ない立場にある。

地元で説明する役割を担うことになった亀岡市の桂川孝裕市長は「危惧するのは、アエモトキを守ってきた地元がこの提言をどう受け止めるかということだ。区画整理事業も進んでおり、事業組合とも協議してないといけない」と不安を口にした。

(目黒重幸、菅田恭彦)



(丹波版)

亀岡スタジアム予定地変更浮上

市長「早急判断せず」

臨時全員協

京都府の球技専用スタジアムの建設予定地を隣接の「亀岡駅北土地区画整理事業地」に移す案が27日に浮上ったことを受け、亀岡市議会は同日夕に全員協議会を臨時で催した。桂川孝裕市長は「地元のみならずの理解が得

られるかが重要」と、市として早急に判断することを避けた。

(1、22面参照) アユモトキの保全に向けた環境保全専門家会議座長による府と市への提言内容を、桂川市長が報告した。そのうえで「提言内容

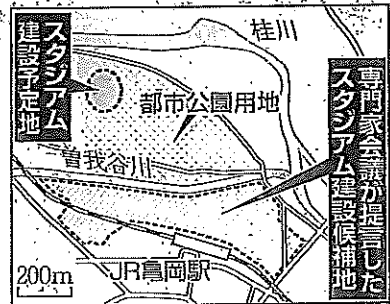
を真剣に受け止める。(その是非については)亀岡市としてすぐ結論が出るものではない。まだ判断はつきかねると市長は述べ、地元の保津町や土地区画整理事業関係者などへの説明を急ぐ姿勢を示した。(秋元太一)

スタジアム予定地再検討 府と亀岡市

府が亀岡市に建設予定の球技場京都スタジアム(仮称)について、府と市は27日、JR亀岡駅北側としていた予定地の再検討を決めた。周辺に生息する希少生物・アユモトキの生態調査を進めてきた専門家会議

(座長川村上興正・元京都大講師)の提言を受け、予定地の南側にある私有地への変更を視野に、地元住民らと協議する方針。

ただ、亀岡市はすでに建設予定地1帯を約14億円で買収済み。専門家会議が提言した南側の私有地は商業施設や住宅街が整備される方針が決まっており、府と市は土地所有者や保全団体などの意向も踏まえ、予定地を最終判断する。



村上座長によると、現在の予定地では、アユモトキの保全調査などに時間がかかり、2017年度内を目指す完成が3年程度遅れる可能性があるという。

会談後、山田知事は「(アユモトキ保全とスタジアム建設の)両立へ大きな方向性が示された」としつつ、亀岡市の意向を尊重する考えを示した。桂川市長は「正直困惑している。提言された私有地では土地区画整理も進んでおり、関係者への説明が必要だ」と述べた。

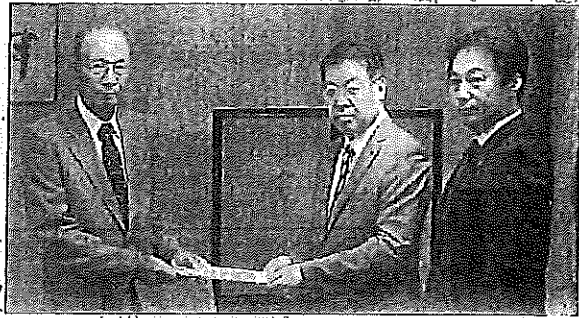


京都スタジアム環境保全専門家会議

建設予定地変更求める

アユモドキ生息地保全に配慮

亀岡市で建設予定の専用球技場、京都スタジアム(仮称)周辺に生息する国天然記念物、アユモドキの生息調査をめぐって、府と亀岡市が共同設置した「環境保全専門家会議」(座長、村上興正・元京大講



村上座長(左)からの提言を受ける山田知事(中)と桂川市長

師)は27日、調査の長期化で建設がさらに遅れることが予想されるとして建設予定地を変更するよう求める提言を山田啓二知事と桂川孝裕亀岡市長に行った。提言によると、これまでの調査で知られていなかったアユモドキの生息が解明され、実証実験を重ねる必要が出てきたという。

このため、アユモドキの生息地の保全を行ったうえでスタジアム建設計画を早

期に進めるためには、候補地を変更することが望ましいと提案。変更先としてJR亀岡駅北側で、市などが現在、土地区画整理事業を行っている場所を提示している。

スタジアムは当初、平成29年度に完成を目指し今年4月着工する予定だったが、調査などを行うためすでに着工を1年先送りすることが決まっている。しかし、調査を継続すれば、着工がさらに遅れる可能性があるという。

提言書を受けとった山田知事は「地元の意思や費用

など問題もあり、判断は「もう戸惑っている」と話されから」と言及。桂川市長「ていた。」



「計画より駅寄りに」

京都スタジアム 専門家会議が提言

予定通り2018年3月側に建設予定の京都スタジアム(仮称)周辺に生息する国の天然記念物「アユモドキ」の保全策を考える環

境保全専門家会議の村上興正座長は27日、そんな提言書を出田啓二知事と同市の桂川孝裕市長に提出した。

村上座長は、実験や分析でアユモドキの生息や保全に向けた知識が蓄えられてきたものの、「あと3年は調査に時間がかかる」と説明。計画通り建設するつもりならば、計画地よりも駅寄りの亀岡駅北土地区画整理事業地に建設するのが望ましいとした。同事業地については、「アユモドキの生息への影響が軽微と考えられる」と述べた。

桂川市長は記者団に「困惑している。提言を実現するには地元で説明して理解を得る必要がある、府と連携して方向性を判断したい」と話した。

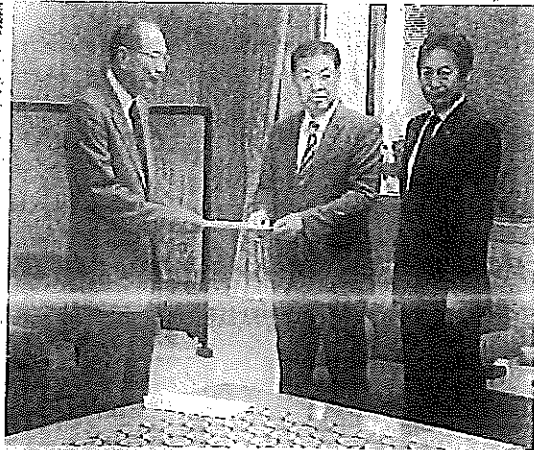
建設地「南に変更を」

亀岡「スタジアム」

専門家会議 知事と市長に提言

府が亀岡市に建設を予定する球技場「京都スタジアム」（仮称）計画について、予定地に生息する絶滅危惧種の淡水魚「アユモドキ」と共生するための調査をしてきた環境保全専門家会議（座長、村上興正・元京都大理学研究所講師）は27日、山田啓二知事と桂川幸裕市長に提言書を提出した。現在の計画地の南側に隣接する場所を建設地とすることが望ましいとして、建設地の変更を求めている。

提言は26日に非公開で開催された専門家会議



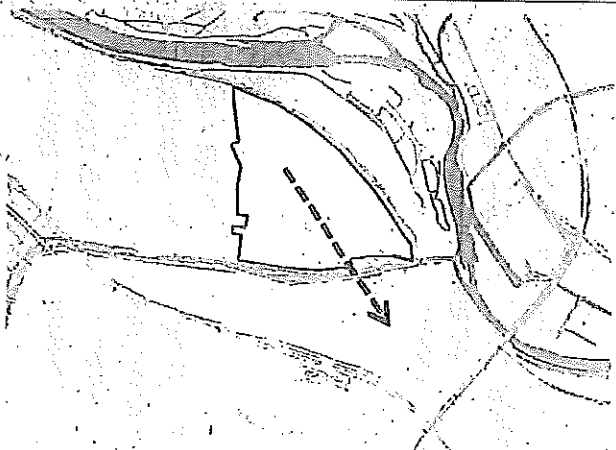
専門家会議の座長から提言を受ける山田知事（中央）と亀岡市の桂川市長（右）。上京区で

議で了承された。現在の計画地はJR亀岡駅の北約200円で、曾我谷川を越えた水田地帯。専門家会議は、JR亀岡駅に直結する「亀岡駅北土地区画整理事業地」への変更を提言した。商業施設や住宅地などとして土地区画整理が進んでいる。

府は2013年5月

から環境保全専門家会議を設置し、アユモドキの生息状況などを調査してきた。村上座長は「現在の計画地でアユモドキの保全を保証するには、調査に少なくともさらに3年はかかる」とし、スタジアムの早期建設を実現させるには計画地の変更が必要だとした。

京都市上京区の府庁で提言書を受け取った山田知事は「提言をしっかり検討させていただし、両立できる案をしっかりと回答させていた方がいい」と答えた。桂川市長は「正直言っ



座長が提言した京都スタジアム（仮称）の建設位置の変更地点。府の資料

て困惑している」とし、「まずは議会や市民にしっかりと提言を説明したい」と述べた。

整理組合は驚き

亀岡市は現在の計画地の13・9秒を約14億円で購入しており、スタジアム部分を府に無償提供する予定だった。変更地とされた工

リアは亀岡駅北土地区画整理組合が区画整理をしている。関本孝一理事長（66）は毎日新聞の取材に「驚いている。組合で合意を得て進めてきた事業で、2月の起工式以来、順々と事業を進めてきた。何とも言えない」と驚いていた。

【野口由紀、磯野健一】



スタジアム建設地変更も

亀岡市長方針 予定地の南側検討

府がJR亀岡駅北側に建設予定の球技場「京都スタジアム(仮称)」について、亀岡市の桂川孝裕市長は9日、建設場所の変更を検討する考えを明らかにした。スタジアムを巡っては、専門家会議が4月下旬、周

辺に生息する希少生物・アユモドキの保全とスタジアムの早期建設を両立する観点から、当初の建設予定地より南側の私有地に変更するよう府と市に提言。桂川市長は9日の府市町村長会議で、提言について「前向きに取り組みたい」と述べた。ただ、変更が検討されている私有地は、土地区画整理事業地として商業施設や住宅の整備方針が決まっ

おり、桂川市長は建設地変更による用地取得費の財政支援などを府に要請。市は私有地の地権者らと協議を始めており、桂川市長は「か」と語った。

土地買収 財政支援を要望

「亀岡市スタジアム予定地変更で府に

京都府が亀岡市で計画する球技専用スタジアムについて、府の環境専門家会議が予定地の変更を求めたことを受け、同市の桂川孝裕市長は9日の府知事・市町村長会議で「財政的に厳しく、府の方をお借りしたい」と述べ、新たな土地の買収に府の財政支援を求めた。

専門家会議は4月27日、国の天然記念物アユモドキの生息環境に影響が出ないよう、予定地を現計画の隣接地に変えるよう提案した。しかし、市はすでに現予定地を約14億円で購入しており、桂川市長は「前向きに

取り組みたい」と述べた。府はもとより、用地を市町村が府に無償提供することを条件に、スタジアム候補地を公募した。用地買収費を府が負担すると前提が崩れるため、府内では財政支援に慎重な声が強い。

山田啓二知事は「市も府も財政フレーム(枠組み)があり、工夫できる」と訴えた。

ようにしたい」と述べた。

最終結論は出ていないが、条件が合えば「建設地変更」と理解を頂けるのではないかと語った。

(竹下大輔)

京

亀岡のスタジアム 用地取得支援示唆

京都府が亀岡市で計画する球技専用スタジアムについて、府の環境専門家会議が予定地の変更を求めた件で、山田啓三知事は13日、土地を確保する亀岡市への財政支援について「土地取得に負担がかかるなら、考えることはあり得る」と述べ、可能性を示唆した。

現計画では、亀岡市が用地を府へ無償提供し、府が建設費を負担する。亀岡市

は現予定地をすでに14億円で取得している。専門家会議は予定地周辺に生息する国の天然記念物アユモドキ保全のため、現計画の隣接地に替えるよう提案した。だが新たな用地取得が必要になるため、市は府へ支援を要請していた。

山田知事はこの日の定例記者会見で、予定地変更を受け入れる条件として、地元合意と財源確保、アユモ

ドキ保全の3点を挙げた。その上で、変更先はJR亀岡駅に近く、現計画に比べて接続道路も土地造成費も不要になると、府が支出するスタジアムの建設費が安くなると指摘。亀岡市への財政支援については「府の負担が減る分の範囲内で考えていく」と述べ、支援を検討する考えを示した。

(竹下大輔)

府が取得費一部負担も

亀岡「スタジアム」予定地変更で 山田知事

府が亀岡市に予定する球技場「京都スタジアム」(仮称)建設場所について、山田啓三知事は13日の定例記者会見で、市が新たに土地を取得することになった場合、府の総事業費156億円の範囲内であれば、一定の費用負担をする可能性があるとの考えを示した。

府の環境保全専門家会議は4月27日、現在の予定地からJR亀岡駅に直結する区域への変更を求めた。予定地に生息する絶滅危惧種の淡水魚アユモドキと共生するため、さらに調査に3年はかかることを理由に挙げた。市はすでに予定地を約14億円で取得している。

山田知事は13日の会見で、提案区域は桂川からの距離が遠くなる

毎

【野口由起】

NHK京都放送局 05月30日 19時03分

亀岡スタジアムに市長が言及

京都府が亀岡市に建設を計画しているスタジアムを巡り、絶滅危惧種の「アユモドキ」への影響を検討している専門家会議が建設場所を変更するよう提言したことを受けて、亀岡市の桂川市長は、変更先の土地を購入できるかどうかについて7月ぐらいまでにメドをつけたいとの考えを示しました。

京都府はJR亀岡駅の近くに球技専用のスタジアムを建設する計画ですが、予定地周辺には絶滅危惧種に指定されている淡水魚のアユモドキが生息しています。野生生物の研究者などをつくる専門家会議が建設によるアユモドキへの影響について調査を続けていますが、評価を出すまでに少なくとも3年以上かかる見込みだとして、4月、建設場所を土地区画整理が進められている市内の別の場所に変更するよう提言しました。

これについて亀岡市の桂川市長は30日の会見で「変更先の土地の鑑定を行った上で区画整理組合に金額を提示し、市として購入できるようお願いしていきたい」と述べ、7月ぐらいまでに購入できるかどうかメドをつけたいとの考えを示しました。

一方、財源については「50億円という市の予算は超えないようにするつもりだが、すでに元の予定地を購入するのに14億円を使うなどしていて、亀岡市だけでは難しいので京都府にも協力をお願いしていきたい」と話しました。

亀岡スタジアム予定地変更案

市長、用地提供を要請

土地区画整理組合に 取得可否7月判断

京都府の球技専用スタジアム計画で、府の環境専門家会議が建設予定地を現在の亀岡市保津町からJ.R.亀岡駅北側の亀岡駅北土地区画整理事業地に変更するよう提案したことを受け、亀岡市の桂川孝裕市長は30日の記者会見で、同土地区画整理組合に用地の提供を要請したことを明らかにした。取得の可否を7月までに判断する考えを示した。

桂川市長は「当初の場所に回執すればスタジアムが亀岡にできない可能性が高くなり、アユモドキも守れないことになりかねない。移転しか道はなく、組合や地元の保津町、府に協力的

「ただきたい」と述べた。市はすでに、現在の予定地を約14億円で購入し、一部の道路整備に約4億円を投じているが、予定地を変更する場合は、新たに土地取得費が必要になる。

桂川市長は、市が関連事業費を50億円としていることを踏まえ、「50億円の枠は変わらない。公園や道路の整備費を抑えることで20億円前後を捻出できないかと思っている」とした。その



上で「それだけでは用地買収は難しく、府に協力いただきたい」と述べた。

亀岡駅北土地区画整理事業地は約17秒で、地権者は約100人。市は建設予定地として東側を想定している。商業施設などを誘致する予定だが、まだ決まっていない。土地区画整理組合の関本孝一理事長は京都新聞の取材に「金額や面積などの具体的な提案を受けてからアリット、デメリットを整理し、関係する地権者と協議したい」と話した。環境専門家会議は、予定地周辺に生息する国の天然記念物アユモドキを保全するため、建設予定地の変更を求めた。現在、府と市が対応を協議している。

(中村幸恵)

建設地変更向け協議へ

スタジアム 亀岡市長と地権者ら

府が亀岡市に建設を予定する球技場「京都スタジアム(仮称)」について、同市の桂川孝裕市長は30日の定例記者会見で、J.R.亀岡駅北側としていた予定地の変更に向け、近く地権者らと協議を始めることを明らかにした。「7月までに」

府が亀岡市に建設を予定する球技場「京都スタジアム(仮称)」については、専門家会議が4月下旬、周辺に生息するアユモドキの保全とスタジアムの早期建設を両立する観点から、当初の予定地より南側の私有地に変更するよう府と市に提言していた。



桂川市長は「アユモドキを守るには予定地の移転しか道はない」と述べた。当初の予定地については、都市公園などに整備する方向で検討するという。

京都スタジアム建設 亀岡市、用地移転を検討 300㎡南へ、7月中に結論

府が亀岡市で計画を進める「京都スタジアム(仮称)」の建設場所に関し、桂川孝裕市長は30日の定例会見で、市が確保する予定地の変更を検討していると明らかにした。移転先は現在の予定地から約300㎡南で、JR亀岡駅北口に隣接する工

リア。地権者らに理解を求め、7月中に結論を出す方針。

先月27日、予定地周辺に生息する絶滅危惧種の淡水魚「アユモドキ」などへの影響を調査する環境保全専門家会議が、「アユモドキ保全を確保するには、あと3年は調査が必要。建設の早期実現には場所の移転が望ましい」として、山田啓三知事と桂川市長に提言していた。

新たな予定地では、今年2月から亀岡駅北土地区画整理組合が商業・住宅地として区画整理事業を始めている。桂川市長は「組合関係者と話し合いを続け、今は予定地の鑑定評価をしている。財源は府にも協力を求める」と説明した。既に買収が完了している当初の予定地(約

13・9畝)については「アユモドキを中心とした自然環境共生型の



都市公園として整備したい」との考えを示した。【磯野健一】

亀岡駅北東側への 移転に前向き姿勢

スタジアム問題で市長

亀岡駅北側に建設予定の京都スタジアム(仮称)について、周辺に生息する国の天然記念物アユモドキの保全策を考える専門家会議が予定地変更を府と市に提案してから約1カ月、亀岡市の桂川孝裕市長は30日の定例会見で、「市にとって移転しか道はない」として移転に前向きな姿勢を示した。市は駅の北東側を移転候補地として想定し、7月をめどに移転の可否を判断するとしている。

市は事業地内の地権者らでつくる組合などと協議を重ねてきた。桂川市長は「当初の予定



スタジアムの建設予定地をめくっては先月、アユモドキへの影響がほとんど無く、建設予定地より駅に近い「亀岡駅北土地区画整理事業地」への移転を専門家会議が提案。これを受け、

地にこだわれば亀岡にスタジアムができなくなるかもしれない」とし、駅北の事業地東側を移転候補地として検討していることを明らかにした。市は予定地変更に向けて土地の鑑定評価などを進めているが、「市は50億円当初予算内が前提。用地買収は厳しく、府に協力を求めたい」と強調した。(森泉萌香)